

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十二月度 入選句 (投稿総数三千六百六句・小中学投句数二千八百五十句)

特選

選者 相馬 みさ子

雪だるま笑顔のまままで溶けてった 美濃加茂市 長谷川 侑香(中二)

雪だるまが溶けていくのは、ごく自然のことですが「笑顔のままで」としたところに作者の雪だるまに寄せる哀感が感じられます。

溶けていく雪だるまをじっと見つめている作者に「笑顔のまま」という姿が印象的だったのでしよう。読み手もこの言葉に心が寄せられ、立ち止まりたくなる一句です。

年賀状とどくたんびに数かぞえ 大垣市 大橋 琉生(小四)

まさにこの時期、年賀状を楽しみに待つお友達も多いことでしょう。

この句は、年賀状が届くたびに数を数えるというのですから、作者の年賀状の届く楽しみ、喜びの様子がよくわかります。

年賀状を何度も読み直したりして相手のことを思いおこしたり、懐かしんだりするのはお正月の一光景です。

作者はきつと、去年よりも年賀状の数が増えたのでしょう。嬉しい新年の幕開けですね。

雪合戦投げて当たって笑い合う 美濃加茂市 加藤 駿弥(中二)

仲間と駆け回って雪合戦をしている光景が目には浮かびます。

「投げて当たって笑い合う」と動詞が三つ続きますが、一連の動作で、リズムカルに表現されていてよいと思います。

最後の「笑い合う」になんとも爽やかな明るさ、雪合戦の楽しさがよく伝わってきます。誰もが子どもの頃に経験した雪合戦、この作品からその楽しさがよみがえってきました。

秀逸

つうがくろぼくもみんなもしろいき 大垣市 やばしりょうたろう(小一)

落葉ちるいろとりどりのつうがくろ 大垣市 のだ かいと(小四)

よせなべをみんなでたべてほっかほか 大垣市 いたう ひで明(小四)

秋夕焼池に写った平等院 大垣市 川 瀬 諒(小六)

夕ごはんと成りの家もさんま焼く 大垣市 杉山 琴音(小六)

きもの着てちよっとおめかし七五三 大垣市 よし川 みゆ(小三)

もみじ葉をしおりがわりに本を読む 大垣市 安藤 世奈(小六)

赤い橋さくらもみじが手をつなぐ 大垣市 大橋 朱那(小六)

クリスマス今年一番町光る 美濃加茂市 白村 浩輝(中三)

じよやのかね数えるうちにねむくなる 大垣市 糺矢 みう(小四)

入選

七五三 いろいろときもの着てみるよ 大垣市 西山 友菜(小四)
 大根がやっと出てきてこんにちは 大垣市 坪井 翔昇(小四)
 銀閣寺もみじのじゅうたん広がるよ 大垣市 山田 夏希(小六)
 えさ持つとぼくに集まるしかの群れ 大垣市 小川 弘貴(小六)
 紅葉とさかさ金閣似合ってる 大垣市 吉田 麻那(小六)
 奈良公園入った瞬間しかのむれ 大垣市 矢橋 舞美(小六)
 くさもみじ足音きいてしやんとする 大垣市 森 怜子(小二)
 いもほりで一番でかいのゲットする 大垣市 ひら木 大な(小三)
 川の中おちばでかざるもやい船 大垣市 大橋 知莉(小六)
 秋の空 一点見つめる芭蕉像 大垣市 西川 雄貴(小六)

入選

今日こそは起きててサンタ見てやるぞ 美濃加茂市 山田 晴穂(中三)
 軒下に揺れるカーテンつるし柿 美濃加茂市 緑川 颯介(中二)
 妹のセーターを編むおばあちゃん 美濃加茂市 佐光 涼夏(中二)
 月ながめ両手あわせていのる祖母 大垣市 桐山 真奈(小六)
 もやい舟紅葉のシャワーをあびている 大垣市 柴原 結菜(小六)
 クリスマスはやくきてきてさんたさん 大垣市 かわせ きりゆう(小一)
 あかやきい落葉がついたランドセル 大垣市 小林 りん子(小二)
 じいちゃんといっしょにたきびあたたまる 大垣市 渡辺 開斗(小四)
 こままわしとつても得意なおじいちゃん 大垣市 川瀬 もあ(小四)
 じきゆう走風とともにゴール切る 大垣市 関谷 晃介(小四)

選者吟

娘の酌に元朝の盃重ねけり

みさ子